

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3271800389		
法人名	社会福祉法人 桜江福祉会		
事業所名	陽光苑グループホーム		
所在地	島根県江津市桜江町長谷2723番地2		
自己評価作成日	平成27年1月18日	評価結果市町村受理日	平成27年5月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kai gokensaku.jp">https://www.kai gokensaku.jp</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	平成27年2月5日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

「よろこび、やすらぎ、自身」を理念に、今まで通りいつまでも住み慣れた地域の一員として、共に支えあい、寄り添いながら利用者様ご自身の「家」としてこれまで通りのその人らしい生活が送れるよう職員一同努めています。また、職員は利用者様の気持ちを感じ受け止めつつ、「してあげる」のではなく、「一緒に」、困難なことは「支えながら」という姿勢で共に暮らし支えています。一年を通して、昔ながらの風習(干し柿、干し大根、おはぎなど)を、大切にその時の季節を感じとっていただいています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

山間部の大変静かな環境の中に位置している半面、近隣が遠く近所付き合いはあまりおおくはないが、地域の中でも歴史ある施設として以前からの交流が盛んで、草刈り、窓拭き等のボランティアが継続している。今年度からはまた新たな取り組みとして、認知症サポーターの受け入れも開始し交流の幅を広げている。法人の考え方として軽度の認知症の利用者を対象としており、職員の異動もできるだけおさえ、馴染みの関係を築くところから認知症の安定に繋げるという形をとっている。職員、利用者共に全員が女性で落ち着いたゆったりとした雰囲気を感じられる。施設の内環境は整っているものの、市の中心部から離れており、通勤などの不便さから職員確保はかなり難しい状況にある。サービスの質の確保のためにも、法人全体で職員確保に取り組んでいただきたい。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の引継ぎ後、業務に入る前に必ず理念を読み上げることで、共有した意識を持ってケアを行えるようにしている。	平成18年に管理者が変わってから作成した理念を継続している。新規職員の採用時や会議の場や朝礼時にも話があり、職員間で共有するようにしている。利用者に喜んでもらうことが、自分たちの喜びと考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域や町内の行事に参加している。(運動会、公民館祭り、町主催の祭り等)また、地域や町内の飲食店を利用し交流を深めている。地域の方には、施設の夏祭りに招待したり、ボランティア(清掃、演芸等)を受け入れて交流をしている。	地域の方々との交流が以前から続いており、年2回の草取り、窓ふきが行われている。地域の祭りには作品展示をしたり、母体の特老の夏祭りには多くのボランティアとの交流もあり、昨年より認知症サポーターの訪問も始まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトとして、認知サポーターの方達へ当グループホームの生活の様子を写真などを取り入れ話をした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開催し、グループホームの現状や取り組みを理解していただくために事例を紹介したり、グループホームだよりを配っている。また、参加者からの質問や意見に応じている。	利用者家族、地域公民館長、民生委員、包括からの参加で定期的に開催。行事報告、事故報告、避難訓練の報告等の後、利用者の様子を伝え、意見交換を行っている。	会議参加者への情報提供の場としても、内容の検討に取り組んでいただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1回の運営推進会議には、市の担当者の方が参加し、グループホームの取り組みなどを理解している。連絡会主催の研修会にも参加している。	運営推進会議へは毎回参加があり、グループホーム等の部会やキャラバンメイトの養成の集いなどでも、市と関わる機会が多く、何でも気軽に相談できる関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間の施錠は当然として、日中は無施錠である。職員は身体拘束の具体例をよく理解している。これまで拘束の事例はない。	身体拘束にあたる具体的な事例をあげ、職員で検討するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県が主催する虐待防止の研修には出席し、その要旨を職員に伝達し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の活用はないが、必要時に備え学び活用できるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約が締結する際には契約内容の説明は勿論のこと、不安や疑問点、その他質問を必ず聞き、理解・納得した上で契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時・病院受診時等で家族とお会いする際には、コミュニケーションを密に図り、信頼関係を深め、意見や不満、苦情を引き出しやすい環境作りに努めている。	グループホームの家族会があり、年1回会合を持っている。今年度も6名の家族の参加で開催しており、事業計画等を説明し苑への意見を聞く貴重な機会としている。2か月に1回利用者の生活の様子を伝えるお便りも出しており、家族の意見を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が介護現場で職員と一緒に利用者様に係わることにより、苦楽を分かち合い、意見交換は行われやすい環境となっており、毎日のように行われている。	管理者は日頃から意見が出やすいように、話しやすい関係を築くように努めている。また、個人的なことについては1対1で話す機会をつくっている。夜勤者に1名欠員が出ているものの、補充が難しい現状もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員それぞれの勤務状況を把握しており、介護職員処遇改善交付金の活用などを通し、働きやすい環境の提供に努めている。また、健康診断・予防接種を通し、健康状態の把握もしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加を促し、職員全員が何らかの研修を受けられるよう取り組んでいる。資格取得の意欲を応援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市が開催するグループホーム部会に出席し交流する機会を作っている。また、研修会で他の事業所との交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの情報を基に、本人の要望や好みなどをじっくり聞き、不安等の解消に努めている。また、入居後はご本人とコミュニケーションを多く図り思いを理解し信頼を得ることに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時から家族の思いを十分に把握し受け止めている。初期は特に本人の状況や活動の報告をこまめに行い、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時にご本人と家族より情報収集を行っている。また、必要としている支援の見落としがないように努め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々のADLを生かしてQOLを保てるような支援に努めている。日常生活の中で、炊事、洗濯、掃除を一緒に行い、利用者様と共に過ごし支え合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には面会や受診など可能な限り協力を得て、疎通にならないようにしている。また、ご本人の誕生日会に招待したり、2ヶ月に1回発行する、グループホーム便りで近況を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から行きつけであった美容院へ入居後も行けるように支援に努めている。また、町の文化祭へも出かけたりと地域の人との触れ合いも行っている。	公共交通機関の利用ができない地域の為、面会はあまり多くはないが、地域の方々との交流を推進するため、馴染みの店への外出や利用の機会をできるだけ持つようしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で、常に様子を伺いトラブルがあった時は、職員が会話の中に入ったリ、必要に応じて席替えなどを行い、利用者同士のより良い関係が得られるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移る場合は、本人の状況や好み、ケアの工夫等の情報を提供している。病院に入院した方の面会に行ったり、家族へ連絡する等の相談・支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の気持ちに近づきながら、意思や希望を見極めている。認知症のため利用者様の希望・意向が把握できない場合があるが、その時の表情・仕草から判断している。	認知症利用者から要望を聞き出すことが難しいため、普段の会話の中から感じ取るようにしている。	身体面、精神面双方の残存機能を活かした取り組みに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、在宅のケアマネージャーに自宅での情報等を聞いたり、家族からも情報提供をして頂いている。また、日々の関わりの中でご本人より近い職員間で共有できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の状態観察を行いながら状態把握に努め、毎日の記録を行っている。畑仕事、調理、読書、創作活動等、それぞれの得意とする分野で活動してもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族の希望に沿って介護計画を作成している。入退院、レベルの変化等の状態変化に応じて現状に即したケアプランを再作成するように努めている。申し送り等で入居者様の状態や対応について、常に職員間で意見交換を行っている。	入所時や入院して退院した時などには、暫定プランを作成し、その都度検討を繰り返し実態に合ったプランになるようにしている。モニタリングは6か月に1回実施し、関係者で意見を出し合い計画作成に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子(言動・行動・食事摂取量・排泄状況等)具体的に個人記録に残している。また、細かく記録に残すことで職員間で情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	歯ブラシ、紙パンツ等の必要物品が足りない場合には職員が代わりに購入している。家族の代わりに介護認定の申請等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加させていただいたり、慰問を受けている。また、嘱託医と連携をとり利用者様が豊かに安全に暮らせるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医に週2回往診していただき、利用者様の健康管理を行っている。生活上の注意事項や観察事項の指示を受け健康管理をすると共に異常の早期発見に努めている。	水曜日、金曜日の週2回の往診があり、夜間緊急時にも対応可能な嘱託医を確保している。このことが利用者家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同施設の看護師が利用者様の薬の管理を行っている。日常の様子、変化等を報告、相談している。必要時には迅速に適切な対応が出来るような相談体制が取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	対象者がいるときには、入院中見舞に伺い、利用者様、ご家族様が安心して療養できるよう言葉をかけ、家族や病院関係者から状況や経過を聴き取り、情報を共通しながらスムーズな退院、帰所後の適切なケアに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、利用者様・ご家族様に重度化した場合の方針を簡単に説明している。事業所で出来る限りの対応に努めると共に、限界についても充分説明している。	比較的介護度の軽い方が多く、重度化した場合も法人全体で対応することとしており、利用開始時に説明し了解を得ている。精神面を含めた看取りの対応について、研修で取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを備え、職員は心肺蘇生法、AED操作の講習を受講し対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者様と共に年2回、消防署の協力を得て、夜間想定を含めた避難訓練を実施している。また、消火器・消火栓の使い方の訓練を行い職員一人ひとりが身につけている。	法人全体での訓練に参加していたが、今後はグループホーム独自に実施する予定にしている。1昨年の水害や今年度は雪での停電等を経験しており、石油ストーブの購入や備蓄へ繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉による制止の無いように職員の研修に努めると共に、職員は利用者様と目線を合わせ話の内容を受容し、利用者様の表情や態度を確認しながら利用者様に接している。	特に研修を実施してはいないが、普段の生活の中で注意している。プライドを考慮したこえがけを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の態度、言葉遣い、表情に気を配り思いや希望を傾聴し、心に添うようにしている。自己決定する意思を何よりも大切にしよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝・食事等の大まかな時間設定はあるが、利用者様の状態・意思により柔軟に対応している。生活リハビリやレクリエーション等の参加も声かけ促しは行うが、本人の希望・意思を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服や装飾品などの身につけるものは本人の趣向で決めていただいている。月1回の理髪店を利用していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者様と共に下ごしらえや盛り付け、後片付けなどを行っている。一人ひとりの摂食機能に合わせた配慮(お粥、副食のキザミ、誤嚥防止のトロミ剤)を行っている。手作りおやつのお楽しみも定期的に取り入れ、一緒に作る楽しみもしている。職員と利用者様は同じ食卓を囲みながら、和やかに会話し、介助が必要な利用者様への励ましや支援をさりげなく行っている。	職員と一緒に食事の下準備や盛り付け、後片付けなど、積極的に関わっている。利用者同士食事を勧め合ったり、手を貸したりなど女性9人に職員が間に入り家庭的な雰囲気の中の食事となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事制限のある方へは、食事量や食材の変更、塩分も調整し対応している。水分量は、一人ひとりが十分に摂取できるよう昼夜とおして行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは欠かさず行っている。個々の能力に合わせて支援介助をし、できる限り見守りで安全にできるようにしている。1日1回、イソジンでのうがいも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は個々の排泄習慣や状況、パターンを把握しており、一人ひとりの心身状態に配慮しながら誘導や声かけを行っている。排泄の失敗や不快感が少ないように努めている。立位可能であれば介助にてトイレでの自力排泄を勧め、状態に応じて無理なく個々の状態にあった自立ができるように支援している。	殆どの方が自立しており介助の度合いは低い。紙パンツやパットの併用など、利用者に合わせて使い方を考えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を常に把握し、牛乳や水分摂取、運動を促し、便秘の予防に努めている。主治医の指示のもと、負担の少ないような下剤調整を状態に応じて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は基本的に週3回、午後に予定しているが、外出と重なった場合には次の日に入浴していただいている。入浴を拒む利用者様には時間を空けたり声かけにも工夫している。入浴剤やゆず風呂を準備したり、入浴順番の配慮も行い楽しく入浴できるように支援している。個々に添った介助にて安全、安心して入浴できるよう対応している。	1対1の形で1日5人ずつの利用になっており、パターンの決まってきたが、その都度声掛けし、入浴の順番や湯音などへの配慮を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室のエアコンで調整し気持ちよく休息、安眠できるように支援している。週1回のシーツ交換と汚染の場合は、その都度交換している。日中に活動の場を提供し、夜、安眠ができる生活リズムが整うよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりがどんな病気で、どんな薬を服用しているかが分かる一覧表を掲示し、全職員が確認できるようにしている。本人の状態に変化があれば記録に残し、情報を看護師に提供できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事やボランティアの演芸、散歩への参加を促したり、コミュニケーションを密にとることで、その表情からたくさんの楽しみや役割を見つけられるような支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的に天候が良ければ希望に応じて戸外散歩を行っている。また、定期的に外出・外食などの計画を立てて実施している。また、ご家族様にも協力いただき、一緒に外食・墓参り等ができるよう支援を行っている。	桜めぐり、田植えばやし、こいのぼり、水族館見学など大きな外出行事は前もって計画を立てて実行しているが、普段は天候と体調に考慮しながら、買い物や散歩など外へ出る機会をできるだけ、増やすようにしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の力に合わせて、施設が家族から小額預かったり、本人に管理していただいたり、個別に対応している。外出時の買い物には本人の財布から支払えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話を持っておられる方がおられ、電話のやり取りは自由となっている。本人の希望があれば電話の取り継ぎを行っている。また、手紙の返信・賀状などのやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中日差しの調節や温度設定、湿度に注意し、利用者様に合わせた配慮をしている。廊下は車椅子同士のすれ違いも充分出来る広さがある。玄関やフロアに季節の花や壁画を行い楽しみや癒される空間作りに努めている。臭いによる不快が無いように対応しており、汚れやすい所はその都度、清潔を保つようにしている。	山間部で大変静か。窓からは季節の木々や花が良く見え季節感が常時味わえる環境にある。ホーム内の廊下や居室は広くゆったりとした解放感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやダイニングの椅子に座って思い思いにゆっくり過ごしたり談話していただいている。居室にてテレビを観たり利用者同士で居室の行き来をして過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベッド・タンス・エアコンが備え付けられ、他は持ち込みが自由になっている。本人が大切にしていた家具や家族写真、家族からのぬいぐるみや花のプレゼント、自作の作品が飾られ、居心地のよい空間となっている。	畳の部屋の利用者が1名あり、状態に合わせることをしている。家で使い慣れた物の持ち込みを進めており、部屋は家族の写真や手芸等の作品が飾られ、居心地良く過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内はバリアフリーで手すりの設置(廊下、脱衣場、浴室、トイレなど)がされている。トイレや風呂場、洗面所が分かりやすいように貼紙等で目印をつけている。		